保育園自己評価表

2022年度

園名　まあむベイビィズ中央林間

保育目標の達成	職員間の連携	地域とのコミュニケーション
【目標】 ・相手を思いやることができる優しい心を持った子 ・自分で決めて自分でおこなえる子 【達成度】 ・日々の生活の中で2歳児が自発的に年下の子を気にかけ、面倒をみようとする姿が見られた。自分が作ったブロックを欲しがると同じものを作って渡してあげたり、０歳児の好きなおもちゃや絵本を取ってあげたり、「いないいないばぁ」など喜ぶことを進んでする姿がよく見られた。他児とのトラブルの中でも相手にも気持ちがあることを伝えながら保育者が仲介し、お互いの思いを理解できるよう促した。全クラスがワンフロアの同じ空間で過ごす中で異年齢での関りを通して「思いやり」の心が育まれていた。 ・一人ひとりと保育者がゆっくり関わる事を大切にし安心できる環境を作るように心掛けた。活動面では、0,1,2歳合同だったり、0歳・1歳児の低月齢、1歳児の高月齢・2歳児といった混合保育、年齢別のクラス活動を行ったりと発達に応じた活動をする中で、気持ちが満たされ自ら意欲的に活動に取り組めるように心がけた。	・１週間に一度、30分～１時間程度の職員会議を行い、些細なことでも共通認識をもって子どもや保護者に対応できるように情報の共有を行い、次週からの予定を話し合い職員の配置や分担を決め様々な活動が安全に楽しく行えるよう連携をとった。年齢分けだけでなく、発達に合わせたグループ分けで活動を行うことで、担当だけでなく全員で子どもの様子を把握するよう職員会議などで話し合う時間を設けた。担当以外の視点からの意見も共有していくことで保育の幅も広がっていった。 ・担当の保育者が中心となり、子ども一人ひとりへの対応の仕方を細かく話し合うことで子どもに合わせた対応ができた。早出、延長時などでの対応についても担当から聞き取り、個々の気持ちに寄り添いながら関われるように職員で意識統一していった。 ・連絡事項簿に家庭からの連絡事項や一人ひとりの健康状態、園での特記すべき情報や降園時に保護者に伝えてもらいたいことなどを記入して保育者間で共有した。担当以外が受けた場合は、記入をしていても必ず口頭でも伝えていくことを全員で守り確実に保護者に伝えられるようにしていった。 ・コロナ対策を徹底し、その都度変化していくウイルス対策を職員で確認しあいながら感染症対策を丁寧に	・コロナ禍ということで地域とのコミュニケーションをとることはむずかしかったが、ここ数年行なえなかった消防署見学を今年度は実施することができた。消防署見学で消防車や救急車に乗せてもらい、はしご車を実際に高く伸ばしてもらうなどの体験をさせてもらっていたので、散歩で消防署の前を通る時には挨拶をしたり声をかけてもらうなどの交流が続いている。 ・ニワトリを放し飼いにしている場所があり散歩で立ち寄らせてもらうことが多くあった。ニワトリが鶏舎に入っているときに子どもたちが行くと管理人さんが気づいてニワトリを放してくれるなど気にかけてもらっている。 ・戸外活動で転園した児童のいる保育園と一緒になるとお互いに声を掛け合い、転園した後の成長や様子を聞いたりと児童を通じて交流を図ることができた。 ・コロナ禍の影響で連携園や公立保育園との交流が今年度も行うことができなかった。また落ち着いた時に交流をしていきたい。

この評価のつけ方：

職員会議を開き各職員への聞き取り